

¹²³I-MIBG（ヨード 123 標識メタヨードベンジルグアニジン）心臓交感神経シンチグラフィ早期相を利用した神経変性疾患の新たな判別方法に関する研究

・はじめに

¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィ検査は、心臓の交感神経の分布と働きを画像で捉えることができる検査です。例えば、症状は似ているが別の病気である、パーキンソン病とその他のパーキンソニズムの区別や、レビー小体型認知症とアルツハイマー病などとの区別のためにおこなわれます。これらの病気を対象とした一般的な ¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィでは、¹²³I-MIBG という放射性薬剤を注射直後と 3~4 時間後の 2 回撮影を行います。しかし、注射から 3~4 時間後の撮影は患者さんにとって待ち時間が長くなり、心身へ負担をかけることや、結果が出るまでに時間がかかり、診断を遅らせることに繋がります。

そこで、私達は ¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィが 1 回のみの検査で済む、新しい判別方法を確立したいと考えています。

・対象

パーキンソン病やレビー小体型認知症など病気を疑われ、古賀総合病院放射線科で 2012 年 4 月 1 日から 2013 年 2 月 28 日までに ¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィを受けられた方 92 名の画像データと診断結果を対象とします。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。本研究の対象となることを希望しない旨の申出があった場合は、対象から除外し、本研究には使用しません。

・研究内容

対象となる期間に古賀総合病院で ¹²³I-MIBG 心臓交感神経シンチグラフィを受けられた方の画像データから新たな判別基準を導き出します。そして、この研究で提案する新たな方法の判別の正確さを従来の方法と比べて、有効であるかどうかを調べます。この研究を行うことで患者さんにあらたな負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、画像データと診断結果は、個人を特定できる名前などの個人情報を削除し、誰のものか分からないようにして研究に用います。また、これらのデータは、古賀総合病院で厳重に管理されます。解析の一部は九州大学でも行いますが、九州大学に持ち込むデータは匿名化さ

れたもののみとし、研究責任者のハードディスクに厳重に保管します。

なお、この研究で得られた研究結果は学会や学術雑誌に公表する場合があります。この場合にも、個人は特定できないような数値や疾患名しか用いませので、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は、承認日より 2016 年 3 月 31 日までとします。

・医学上の貢献

本研究の研究成果はパーキンソン病やレビー小体型認知症の判別のために発生する患者さんの身体的負担軽減や検査結果が判明するまでの時間短縮の一助になり得る可能性が高いと考えます。

・研究機関

九州大学医学研究院保健学部門	教授	杜下 淳次
医学系学府保健学専攻	大学院生	椎葉 拓郎
(社会医療法人同心会古賀総合病院 放射線技術部 主任診療放射線技師)		
宮崎大学医学部放射線科	講師	西井 龍一
九州大学医学研究院保健学部門	教授	佐々木雅之
社会医療法人同心会古賀総合病院	放射線科部長	木原 康
社会医療法人同心会古賀総合病院	放射線技術部部長	前田 昌二

連絡先：

九州大学医学研究院保健学部門 杜下淳次

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL (092) 642-6673